

A. 発明の属する分野の分類 (国際特許分類 (IPC))

Int.Cl.? A61K35/84, A23L1/30, A61P19/02, 19/08, 19/10

B. 調査を行った分野

調査を行った最小限資料 (国際特許分類 (IPC))

Int.Cl.? A61K35/84, A23L1/30, A61P19/02, 19/08, 19/10

最小限資料以外の資料で調査を行った分野に含まれるもの

| | |
|-------------|------------|
| 日本国実用新案公報 | 1922-1996年 |
| 日本国公開実用新案公報 | 1971-2005年 |
| 日本国実用新案登録公報 | 1996-2005年 |
| 日本国登録実用新案公報 | 1994-2005年 |

国際調査で使用する電子データベース (データベースの名称、調査に使用した用語)

BIOSIS/MEDLINE/FPIDS (STN), Cplus (STN), EMBASE (STN), JMEDPlus (JOIS), JSTPlus (JOIS)

C. 関連すると認められる文献

| 引用文献の カテゴリ* | 引用文献名 及び一部の箇所が関連するときは、その関連する箇所の表示 | 関連する 請求の範囲の番号 |
|----------------|--|------------------|
| PX | WO 2004/26239 A2 (Momentum Pharmaceuticals) 2004. 04. 01, Fig. 3&WO 2004/26239 A3&US. 2004/58889 A1&AU 2003272472 A1 | 1-15 |
| PX | JP 2004-277414 A (チッソ株式会社) 2004. 10. 07 (フィリナシ) | 1-15 |
| X | Keishi HATA et al, Stimulative effects of (22E, 24R)-ergosta-7, 22-diene-3b, 5a, 6b-triol from fruiting bodies of Tricholoma auratum, on a mouse osteoblastic cell line, MC3T3-E1, Biological & Pharmaceutical Bulletin, 2002, | 1-15 |

☑ C標の続きにも文献が列挙されている。

☐ パテントファミリーに関する別紙を参照。

* 引用文献のカテゴリ

「A」特に関連のある文献ではなく、一般的技术水準を示すもの

「E」国際出願日前の出願または特許であるが、国際出願日より後に公表されたもの

「L」優先権主張に基礎を提起する文献又は他の文献の発行日若しくは他の特別な理由を確立するために引用する文献 (理由を付す)

「O」口頭による開示、使用、展示等に言及する文献

「P」国際出願日前で、かつ優先権の主張の基礎となる出願

の日の後に公表された文献

「T」国際出願日又は優先日後に公表された文献であって出願と矛盾するものではなく、発明の原理又は理論の理解のために引用するもの

「X」特に関連のある文献であって、当該文献のみで発明の新規性又は進歩性がないと考えられるもの

「Y」特に関連のある文献であって、当該文献と他の1以上の文献との、当業者にとって自明である組合せによって進歩性がないと考えられるもの

「&」同一パテントファミリー文献

国際調査を完了した日

13. 06. 2005

国際調査報告の発送日

28. 6. 2005

国際調査機関の名称及びあて先

日本国特許庁 (ISA/J P)

郵便番号 100-8915

東京都千代田区京橋三丁目4番3号

特許庁審査官 (権限のある職員)

鶴見 秀紀

電話番号 03-3581-1101

内線 3452

| C (続き) . 関連すると認められる文献 | | |
|-----------------------|--|------------------|
| 引用文献の カテゴリー* | 引用文献名 及び一節の箇所が関連するときは、その関連する箇所の表示 | 関連する 請求の範囲の番号 |
| X | Vo. 25, No. 8, pp. 1040-1044, abstract, Table 1 島恵司 他, 食用キノコに含まれる骨粗鬆症予防因子“キンダケ”から見いだされたステロイド化合物の生理活性, 化学と生物, 2003, Vol. 41, No. 12, pp. 776-777 | 1-15 |
| X | JP 2002-308777 A(富士バイオ株式会社)2002. 10. 23, 請求項2, 【0003】 (ファミリーなし) | 1-15 |

特許協力条約

PCT

国際調査報告

(法 8 条、法施行規則第 40、41 条)

[PCT18 条、PCT 規則 43、44]

| | | |
|-----------------------------|---|---------------------------|
| 出願人又は代理人 の書類記号 A5122EM | 今後の手続きについては、様式 PCT/ISA/220 及び下記 5 を参照すること。 | |
| 国際出願番号 PCT/JP2005/004512 | 国際出願日 (日.月.年) 15.03.2005 | 優先日 (日.月.年) 15.03.2004 |
| 出願人 (氏名又は名称) 有限会社康源 | | |

国際調査機関が作成したこの国際調査報告を法施行規則第 41 条 (PCT18 条) の規定に従い出願人に送付する。
この写しは国際事務局にも送付される。

この国際調査報告は、全部で 3 ページである。

☐ この調査報告に引用された先行技術文献の写しも添付されている。

1. 国際調査報告の基礎

a. 言語は、下記に示す場合を除くほか、この国際出願がされたものに基づき国際調査を行った。

☐ この国際調査機関に提出された国際出願の翻訳文に基づき国際調査を行った (PCT 規則 23.1(b))。

b. ☐ この国際出願は、ヌクレオチド又はアミノ酸配列を含んでいる (第 I 欄参照)。

2. ☐ 請求の範囲の一部の調査ができない (第 II 欄参照)。

3. ☐ 発明の単一性が欠如している (第 III 欄参照)。

4. 発明の名称は ☒ 出願人が提出したものを承認する。

☐ 次に示すように国際調査機関が作成した。

5. 要約は ☒ 出願人が提出したものを承認する。

☐ 第 IV 欄に示されているように、法施行規則第 47 条 (PCT 規則 38.2(b)) の規定により国際調査機関が作成した。出願人は、この国際調査報告の発送の日から 1 カ月以内にこの国際調査機関に意見を提出することができる。

6. 図面に関して

a. 要約書とともに公表される図は、

第 _____ 図とする。 ☐ 出願人が示したとおりである。

☐ 出願人は図を示さなかったで、国際調査機関が選択した。

☐ 本図は発明の特徴を一層よく表しているで、国際調査機関が選択した。

b. ☒ 要約とともに公表される図はない。

A. 発明の属する分野の分類 (国際特許分類 (IPC))

Int.Cl.7 A61K35/84, A23L1/30, A61P19/02, 19/08, 19/10

B. 調査を行った分野

調査を行った最小限資料 (国際特許分類 (IPC))

Int.Cl.7 A61K35/84, A23L1/30, A61P19/02, 19/08, 19/10

最小限資料以外の資料で調査を行った分野に含まれるもの

日本国実用新案公報 1922-1996年
 日本国公開実用新案公報 1971-2005年
 日本国実用新案登録公報 1996-2005年
 日本国登録実用新案公報 1994-2005年

国際調査で使用した電子データベース (データベースの名称、調査に使用した用語)

BIOSIS/MEDLINE/PPIDS (STN), Capius (STN), EMBASE (STN), JMEDPlus (JOIS), JSTPlus (JOIS)

C. 関連すると認められる文献

| 引用文献の カテゴリー* | 引用文献名 及び一部の箇所が関連するときは、その関連する箇所の表示 | 関連する 請求の範囲の番号 |
|-----------------|--|------------------|
| PX | WO 2004/26239 A2 (Momentum Pharmaceuticals) 2004.04.01, Fig. 3&WO 2004/26239 A3&US 2004/58889 A1&AU 2003272472 A1 | 1-15 |
| PX | JP 2004-277414 A (チッソ株式会社) 2004.10.07 (ファミリーなし) | 1-15 |
| X | Keishi HATA et al, Stimulative effects of (22E, 24R)-ergosta-7, 22-diene-3b, 5a, 6b-triol from fruiting bodies of Tricholoma auratum, on a mouse osteoblastic cell line, MC3T3-E1, Biological & Pharmaceutical Bulletin, 2002, | 1-15 |

☒ C欄の続きにも文献が列挙されている。☐ パテントファミリーに関する別紙を参照。

* 引用文献のカテゴリー

「A」特に関連のある文献ではなく、一般的技術水準を示すもの
 「E」国際出願日前の出願または特許であるが、国際出願日以後に公表されたもの
 「L」優先権主張に疑義を提起する文献又は他の文献の発行日若しくは他の特別な理由を確立するために引用する文献 (理由を付す)
 「O」口頭による開示、使用、展示等に言及する文献
 「P」国際出願日前で、かつ優先権の主要の基礎となる出願

の日の後に公表された文献

「T」国際出願日又は優先日後に公表された文献であって出願と矛盾するものではなく、発明の原理又は理論の理解のために引用するもの
 「X」特に関連のある文献であって、当該文献のみで発明の新規性又は進歩性がないと考えられるもの
 「Y」特に関連のある文献であって、当該文献と他の1以上の文献との、当業者にとって自明である組合せによって進歩性がないと考えられるもの
 「&」同一パテントファミリー文献

国際調査を完了した日

13. 06. 2005

国際調査報告の発送日

28. 6. 2005

国際調査機関の名称及びあて先

日本国特許庁 (ISA/J P)

郵便番号 100-8915

東京都千代田区霞が関三丁目4番3号

特許庁審査官 (権限のある職員)

鶴見 秀紀

電話番号 03-3581-1101 内線 3452

4C

8415

C (続き) . 関連すると認められる文献

| 引用文献の カテゴリー* | 引用文献名 及び一部の箇所が関連するときは、その関連する箇所の表示 | 関連する 請求の範囲の番号 |
|-----------------|--|------------------|
| X | Vo. 25, No. 8, pp. 1040-1044, abstract, Table 1 畠恵司 他, 食用キノコに含まれる骨粗鬆症予防因子“キンタケ”から見いだされたステロイド化合物の生理活性, 化学と生物, 2003, Vol. 41, No. 12, pp. 776-777 | 1-15 |
| X | JP 2002-308777 A(富士バイオ株式会社)2002. 10. 23, 請求項2, 【0003】(ファミリーなし) | 1-15 |